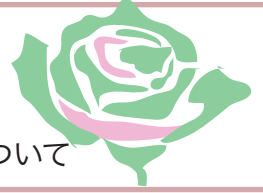


社会福祉法人グリーンローズ

「ことば」の教室
オリブ園
インクル

令和元年度の終了ちかく
難聴オリブ集う会について
令和元年度ワークショップについて



令和元年度終了が近づくにあたって

グリーンローズ理事長 後藤 進

令和元年度(2019年4月から)の子どもたちの活動・成長はいかがだったでしょうか。まず、子どもたちのしあわせ感、楽しさ感が一番と思います。お母さん・ご家族となかよくできたかな? 自分の好きなこと見つけられたかな?、他の子どもたちにも注目できたかな? 思いっきり遊んだかな? 等々、がしあわせ感・楽しさ感につながるのではないのでしょうか。その先に「成長」ということばがついてくるとしています。新しい年度、ここから小学校、中学校、高校、大学、社会に入っていく子どもたちが、そして進級される子どもたちが、元気で羽ばたいてほしいと思います。子どもたちと皆様に、私の師でもある方の俳句を贈ります。

四月一日 手を振って 羽の音を出す 平元愚子



ワークショップ報告 2019年10月22日(土)

今年度も子どもたち、ご家族、地域の方々、そして私たち職員のためにワークショップを開催しました。(報告)

子どもの心に寄り添って ～子どもの心の発達と特性理解～

松原徹先生(医師)

城東こどもクリニック&病児保育『ことりの森』 院長



参加された方々の感想(この他多数)

- ・ 乳幼児期から幅広い年代のことにふれられていて良かった。これから、子どもが学校にあがる中、とても不安でしたが、これからの子育ての方針がつかめて良かったです。ありがとうございました。
- ・ とてもわかりやすいお話で、なんか楽になった気がします。
- ・ 愛着障害と発達障害が似ていることをはじめて知った。心に寄り添っていろいろな関係を知ることも大切だと感じた。
- ・ とっても大事な事だと思いました。主人も一緒に連れてきて、聞いてもらって良かったです。
- ・ 具体的な事例を含めてお話を聞かせていただき、すごくわかりやすかったです。自分の子どもと照らし合わせながら、考えることができました。“理由がある”ということ、“よりそう”ということ、すごく勉強になりました。

子どものこころの発達 ～乳幼児期早期の感情を育てること～

小林順子先生(公認心理士)

国際医療福祉大学クリニック
言語聴覚センター 小児精神衛生室



参加された方々の感想(この他多数)

- ・ 毎日子供たちと関わっていくなかで再確認させられる内容でした。自分は1日中ずっとその子だけを見ることができず、たった2単位40分だけだけど、その訓練でなにか実になればという思いで今後も支援させていただきたいと思いました。
- ・ 先生ご自身が、特性のあることを全面に出されており、私も安心しました。私は診断について迷いの中にいるので、先生のそのままの姿に自信と勇気をもらいました。共感できることはたくさんあり、今までの自分の考えにも自信を持つことができました。あと、AM・PMと2回聴けて助かりました。
- ・ 保護者でもあり、ペアトレは勉強していないけれど、お話をきいて、スモールステップで誉めている自分にも気付くことができ、自分ががんばってるなと思いました。

裏面もありますよ!

何かありましたら誰にでも連絡・相談

ホームページ <http://www.olive.kodomo-sekai.jp>
E-mail olive@kodomo-sekai.com



難聴オリブ集う会 が開催されました。 2019年8月10日(土) 二人の卒園児からの発表を掲載します。 素晴らしい発表でした!!

小野花音さん

小野花音です。由利本荘市の由利高校の3年生です。

① どうして由利高校を選んだのか

勉強で切羽詰まるような生活が嫌で、余裕を持って勉強したり、高校生活を楽しんだりできる所に入りたかったからです。もう1つレベル上の本荘高校に入るか迷った時もあったけど、夏休みの体験入学で授業体験をした時、あまりにも速すぎて絶対ここではやっていけないと思い、やめました。また、障がい者に対する対応も違って、本荘高校は突き放すような対応だったけど、由利高校はびっくりするほどとても丁寧な対応で、ここなら安心して入れると思ったのも理由の1つです。

② 高校に入るときにしたこと

中2・3と2回高校を見学して、先生とサポートのことで面談しました。精神的に落ち着いて受験したかったので、特別支援学校も受験しました。合格直後には、高校の先生方と中学校の先生方も含めてどんなサポートをしてもらうか話し合いました。

③ 高校生活、人間関係

高校入学時、全学年に存在を伝えてもらい、同学年には対応の仕方も教えてもらいました。部活動でも顧問の先生や部員にきこえの状態と対応を伝えました。新入部員が入ってくる度に自分で伝えました。友達やクラスメイトはみんな優しく、困ったときに助けてくれる人が多いです。担任の先生が頻繁に各授業について分からないこと、困っていることのアンケートをとってくれてすぐに対応してくれました。授業中はFMマイクとタブレットを使用し、2年生からは数学と英語のときにサポートの先生をつけてもらいました。

④ 部活について

私は民謡部に入っていました。耳がきこえないけどやりたいという気持ちで入部しました。最初はとても不安だったけど、やっていくにつれて充実感を感じることができました。仲間も優しく、たくさんの公演や大会を通じていろんな人と関わりを持ってました。私は楽器ができないので踊りを中心に行っていたけど、三味線や太鼓にも挑戦してできるようになりました。耳がきこえないせいで辛いことや苦しいこともたくさんあったけど、今ではいい思い出です。

民謡部に入って本当に良かったと思っているし、いつかはまた民謡をやりたいと思っています。

⑤ 将来について

本当は助産師になりたかったけど、中ざわ先生には「絶対ムリ!」と言われました。すごいショックだったけど、改めて考え直して今は社会福祉士になり、子どもと関わる仕事をしたいと考えています。大学に進学して、なれるように頑張りたいです。

鈴木里桜さん

生まれてきてから耳が聴こえないと気付いてから、私は聴覚支援学校の幼稚部に入り、小学校は家の近くの日新小学校に通いました。

小学校時代で嫌だったことは、自分にとって重要な情報をしっかり理解できるように、頭の中で回転をかけることがとても疲れること。なので、人と話すことをあまり好みませんでした。また、声をかけられたことも分からず、相手に「無視」されたことと誤解を与えてしまい、「イジメ」につながってしまいました。

その一方で良かったことは、健聴者と友達になることで、聾・難聴の世界、健聴者の世界、の2つの世界を知ることができて良かったと思います。また、健聴者に耳の障害がある人には「大きな声で、ゆっくり」話せば伝わるということを知ってもらえるのも良かったと思います。中学校で聴覚支援学校を希望した理由は、普通学校と違って、「手話」をコミュニケーションとして使っているの、気を使うことがないと感じたからです。

高校受験の時に、学校を選ぶポイントは「授業スピードに追いつけるのか?」「ここで楽しくやっていけそうか?」「辛いことがあっても頑張れる場所か?」でした。その3つに当てはまったのが、聴覚支援学校でした。

今後の進路のことは希望しているところは決まっていないが、実習をたくさんやりながら決めていきたいと思っています。

一人暮らしをしたいので、できるだけ自分で家事をやり、一人暮らしで気をつけることを学びながらやっています。(学んでいるところです)。



オリブ園 こども発達クリニック

☎ 018-838-1720

健診・予防接種等も やっていますよ。 ☎ 予約が便利です。

何かありましたら いつでも 誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ http://www.olive.kodomo-sekai.jp